

## 日本宇宙少年団(YAC)うちのうら銀河分団・体験学習(2024/7/26) 特別講師に JAXA 藤平耕一 主任研究開発員が決定

～Google Earth Engine や LUNARCRAFT など最新デジタル宇宙教材による講義・ワークショップ実施～



肝付町(町長:永野和行)は、「スペースサイエンスタウン構想」を策定(2015-2024)し、宇宙人材の育成を推進しており、町内において、社会教育活動の一環として、宇宙教育を実践している日本宇宙少年団(YAC)うちのうら銀河分団の活動も長らく支援してきました。

今般、実施される YAC うちのうら銀河分団の宿泊体験学習において、特別講師・JAXA 主任研究開発員 藤平耕一氏による講義・ワークショップが決定しました。当日は、『人生は五次方程式』と題して、①キャリアの話に続き、②衛星データの話では衛星データ及び Google Earth Engine を使った衛星データのデモ操作、さらに、③月の話では LUNARCRAFT のデモプレイを通じて月世界を学ぶ予定です。

- ◆日時:2024年7月26日(金) 9:00～11:00
- ◆場所:肝付町内之浦銀河アリーナ(肝付町南方 289)
- ◆対象:日本宇宙少年団(YAC)うちのうら銀河分団員(小4～小6が中心)ら 30名程度
- ◆講師:藤平 耕一氏(宇宙航空研究開発機構(JAXA) 主任研究開発員)

2010年、JAXA 入構。小型衛星(SDS-4)と大型衛星(GOSAT-2)の開発に従事。2016年、文部科学省宇宙開発利用課に出向し、政策的観点から宇宙開発に携わる。その他、NHK「サイエンス ZERO」やラジオ日本「ディープな宇宙をつまみぐい」に出演。2017年には経済産業省「始動 Next Innovator2017」に参加。2018年、JAXA に復帰し、新事業促進部にて共創型研究開発プログラム(J-SPARC)のプロデューサーとして、社内外のプレイヤーとともに共創による事業開発に従事。2024年7月から宇宙戦略基金事業部にて日本の宇宙産業振興のさらなる加速を目指す。東京工業大学大学院修了、埼玉県出身。

つきましては、この機会に、本活動の取材をご検討いただければ幸いです。なお、取材ご希望の方は、肝付町にご連絡ください。

## 【参考情報】

### ◆宇宙航空研究開発機構(JAXA) 主任研究開発員 藤平耕一氏 コメント

私自身、15年間宇宙開発に携わっているのに初めての肝付町訪問になります。日本のロケット打上げの歴史を支えてきた肝付町で、YACのみなさんにお会いできることを楽しみにしています。今回は、最新のデジタル宇宙教材を活用して、衛星データ利用と月面開発の2本柱のワークショップを行う予定です。どちらも、JAXA宇宙教育センターから公開されているデジタル教材を用い、実際の衛星データを触ってみることで、デジタル空間で月面世界を体験してみることを通じ、自分自身の経験として、子どもたちの中に思い出に残る時間になることを目指します。一緒に楽しく学びましょう！



### ◆Google Earth Engineによる衛星データに係る教材

「Google Earth Engine」とは、地球観測衛星が取得したデータや画像の分析ができる、オンラインのプラットフォーム。良く知られている「Google Earth」は、自分の端末にアプリケーションをインストールして利用し、地球儀上に配置された衛星画像を閲覧することでも、衛星画像そのものを分析することはできず。一方の「Google Earth Engine」では、衛星データを計算したり、画像を加工したり、分析結果をグラフに表示することもでき、すでに膨大な量の衛星データが準備され、新たな観測結果も更新され続けている。解析にはJavaScriptを利用するが、すでにソースコードのサンプルが準備されており、一からプログラミングを勉強しなくても、すぐに簡単な解析を始めることが可能。Googleアカウント(=Gmailのアドレス)と一般的なウェブブラウザ(Internet Explorer等)があればすぐに利用を開始することができ、スマートフォンやタブレット端末を使った画像解析も可能。

### ◆LUNARCRAFT(ルナクラフト)

「Minecraft(マイクラ)」、通称“マイクラ”と呼ばれる、3Dブロックで構成された仮想空間の中で、ものづくりや冒険が楽しめるゲーム。世界中で爆発的なヒットを記録し、日本でも小中学生を中心に絶大な人気を誇っている。このマイクラを活用し、月の環境を再現した「ルナクラフト」という教材をJAXA宇宙教育センターが制作。「ルナクラフト」では、月周回衛星「かぐや」が取得した月の地形データを用いるとともに、SLIMの着陸地点を含む地形や、月の重力などの環境も可能な限り再現し、月の世界を疑似体験できるものとなっている。ルナクラフト日本語版は2023年12月に、英語版は2024年2月にそれぞれ公開し、5月上旬時点で約7,000件ダウンロードされている。また、英語版については、北米、中南米、欧州、中東、アジアといった約20か国のウェブメディアなどでも紹介されている。

### ◆日本宇宙少年団(YAC: Young Astronauts Club - Japan)

つくば科学万博の翌年1986年11月に設立された公益財団法人日本宇宙少年団(理事長:山崎直子元宇宙飛行士)。JAXA宇宙教育センターとの連携・協力により、宇宙をテーマにした体験プログラム、水ロケットコンテスト、スペースキャンプ、宇宙飛行士との交流、衛星データを利用した学習プログラムなど、宇宙のホンモノを題材としたさまざまな社会教育活動を通じて、未来を担う青少年の育成に取り組む。全国に約140分団、約3,000名団員、約800名指導者が所属(のべ団員数約2万人以上)。鹿児島県内では、8分団(大隅地域は、おおすみ分団(鹿屋市)とうちのうら銀河分団(肝付町))があり、月1回程度活動。うちのうら銀河分団は1990年発足、YAC鹿児島地方本部は県地域政策課が事務局。



### ◆肝付町スペースサイエスタウン構想

「宇宙に一番近い町「宇宙の浦」肝付 ～宇宙技術を生生活と地域活力に結びつけるスペースサイエスタウン～」を将来ビジョンに掲げた2015年3月に策定された町の構想(2015-2024:10年間)。2006年に策定した第1次肝付町総合振興計画に沿ったもので、肝付町のまちづくりの分野全般に渡って「宇宙科学」に関連する部分を横断的にまとめた構想として策定。将来ビジョンの実現に向け、①町外から人を呼ぶ施策、②射場を活用する取り組み、③地域資源を生かした取り組み、④町を支える人づくり、4つの施策方針を定め、定住人口・地域活力の創出を目指す。宇宙開発利用により得られた技術やデータを肝付町の様々な産業振興や教育に活かすことにより、国の政策目標「民生分野における宇宙利用の推進」を実証しながら地域振興を図り、「宇宙を活用した地域振興」のモデル地域として他市町村にノウハウの供与を行っていく予定。<https://kimotsuki-town.jp/material/files/group/10/16709656.pdf>

【取材に係る連絡先】 肝付町宇宙のまちづくり推進課

上籠・坂元(0994-65-2514 / space@town.kimotsuki.lg.jp)